

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600335		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームいすの木 1階		
所在地	苫小牧市住吉町2丁目8-9		
自己評価作成日	令和7年11月30日	評価結果市町村受理日	令和8年1月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail.022.kani=true&JigvosyoCd=0193600335-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者、家族、スタッフが一緒に暮らす家族と位置付けながらも一人一人の思いや個性を大事にしながらか支援することを心掛けています。地域の人達との関わりを多く持てる様にし、定期的に傾聴ボランティアの訪問があり1対1で話をじっくり聴いてくれています。それぞれに役割を持ってもらい日々の生活が単調なものにならない様にしています。いすの木には中庭と施設周りに狭いながらも花壇や畑があり季節になると花や野菜を植え、収穫した野菜を調理して食べています。施設正面には高台になった公園があり自然環境に恵まれており、春には新緑、秋には紅葉等、施設に居ながらにして季節の移り変わりを感じる事ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

苫小牧市内の幹線通りに面した住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。道路を挟んだ向かいに市立病院があり、公園やコンビニエンスストアも近く、生活環境に恵まれている。建物は1、2階とも回廊式で、中庭部分から光が差し込む明るい造りとなっている。また、居間と食堂が別々にあり、他に和室コーナーあるなど、居場所が多い。共用空間には季節の装飾や絵画などが飾られ、温かみのある雰囲気である。運営法人が道内で多数のグループホームを運営しており、各種書式や研修体制が整っている。地域との関係では、町内会の夏祭りや地域の認知症カフェに利用者が参加し、住民と交流している。また、事業所として地域の認知症サポーター養成講座にも協力している。運営推進会議には関係メンバーが揃い、各回のテーマも設定し話し合いが行われている。職員同士のコミュニケーションが良好で、お互いに相談や注意しあえる関係を築き、定着率も高いため利用者や家族の安心につながっている。食事は、法人の栄養士によるバランスの取れた献立をもとに、季節の食材や事業所で採れた野菜も提供されている。調理や後片付けには利用者もできる範囲で手伝っている。居心地のよい環境と温かい支援のもと、安心して過ごすことが出来るグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所には職員皆で考えた理念があり、目に付く所に張り出してあり、毎日、仕事に就く前に理念を確認する様にしている、又、カンファレンス会議時には理念に添った支援をしているか話し合っている。	4項目からなる事業所独自の基本理念に「地域のみなさんとの交流」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。職員や利用者の見やすい場所に理念を掲示し、会議や申し送り時に確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事への参加、施設行事への町内会の人達の参加のお願い、町内会の廃品回収時にはダンボール等の廃品の提供をして町内会活動への協力を行っている。	町内会の夏祭りに利用者と一緒に参加している。近くの認知症カフェにも利用者が出かけ、住民と交流している。看護学校の実習生を受け入れており、今後は小学校や保育園との交流を深めたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や地域の人達が認知症の人達を理解していただけるように施設で勉強会を開催したり、認知症の人達に関する相談も受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催しており、入居者家族、市の担当者、地域包括支援センター、町内会、民生委員の人達に出席をいただき意見やアドバイス、様々な情報をいただきサービスに活かしている。	会議を2か月ごとに開催し、市や地域包括支援センター職員、町内会役員、民生委員、複数の家族の参加を得ている。計画的にテーマ設定している。参加できなかった家族の意見や会議での質疑応答についても議事録に載せる意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の介護福祉課の担当者に出席いただいており地域支援事業の情報や市の情勢、アドバイス等をいただいている。	運営推進会議に市や地域包括支援センター職員の参加があり、意見や情報を得ている。地域包括支援センターが主催する「地域ケア会議」に参加したり、事業所として「認知症サポーター養成講座」に協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員全員が社内外で開催されている研修に参加したり、当事業所でも独自で勉強会を開催し、どのような事が身体拘束にあたるのかをよく理解し身体拘束しないケアに取り組んでいる。	禁止事項に該当する身体拘束は行っておらず、グレーゾーンの事例があれば委員会で話し合っている。3か月ごとの委員会と、年2回の勉強会を実施し、勉強会で11項目の禁止行為を確認している。交通量が多いため、日中も玄関を施錠しているが、利用者の外出希望があれば同行するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても社内外の研修で何度も取りあげられており、虐待に繋がる色々な状況を理解し虐待防止に努めている。また、虐待に繋がる職員の業務上のストレスについても本社からのアンケート調査や相談窓口がある。		

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見人制度を利用していた入居者がいたため、成年後見人制度については職員全員が理解しているし、日常生活自立支援事業についても市の介護福祉課や市の広報誌からも情報を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際には本人と家族には十分な説明をして納得頂いた上で契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの訴えは日々の生活の中で聞いており、家族からの意見や要望は面会時、運営推進会議、家族参加の行事の時に聞き入れる様になっている。	来訪時や運営推進会議で家族の意見を聞き、意見や要望を利用者ごとのノートに記録している。家族会の再開も今後検討している。家族へのお便りの代わりに、法人のホームページに事業所のブログを載せ、毎月更新している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は毎日の業務の中や月に一回のカンファレンス会議で意見交換や提案を聞き入れて業務に反映させている。	毎月のカンファレンスで職員は活発に意見交換している。年1回は管理者と職員の面談を行っている。各種の業務担当を細かく決めていないが、室内装飾を全員で行ったり、行事をその日の担当者が受け持つなど、役割を分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、労働時間は会社規定があるが、勤務形態、シフトの変更、希望休み等は出来るだけ聞き入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が出来るだけ研修等に参加する事が出来るよう勤務の調整をしたり、外部研修の助成もあり、それぞれの職員が自分に必要な研修に参加しスキルアップが出来る様に支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会、管理者・ケアマネ研修、また、他事業所訪問等で同業者間の交流を通じてサービスの向上に務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人の面接時に今までの生活状況、今困っている事、そしてこれからはどんな生活を望んでいるのかをじっくり聴き、身体面、精神面で出来るだけ本人の望む生活を実現出来る様に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族の面接時に家族の要望、本人と家族の関係性も含め家族の要望が本人の要望と相反するものでない限り聞き入れ、家族の気持ち大切に家族の協力を得ながら支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの聞き取りから得た情報をもとに生活歴、以前利用していた施設やサービス事業所、かかりつけ医療機関からの情報等から本人が必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とスタッフは家族という意識で入居者それぞれに役割を持っていただき出来る事を手伝ってもらいながら入居者と共に生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期通院等は家族に付き添っていただく、面会等に制限を設けず、いつでも入居者に関われる体制をとっている、以前は家族参加型の行事もやっていたがコロナ以降は出来ていなかったが再開を考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会は時間に関係なくいつでも受け入れており、入居前に行かれていた美容院や理髪店にも本人の希望があればいつでも行かれる様に支援している。	2名ほどの利用者に友人や知人が来訪している。年賀状や手紙が来る方がおり、返事の作成を職員が支援することもある。行きつけの美容院に通う方や、馴染みのコンビニエンスストアに出かける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が一緒に過ごせる場所が施設内に数か所あり殆どの入居者が日中は談話室や食堂でテレビを観られたり話をして過ごされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者家族との関わりは多く、近くに来たので寄ったとか、相談事がある時にも気軽に来る事が出来ると言われ、自分の庭で採れた野菜を持って来て下さる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向は最優先に支援をしている、言葉で意思を伝えられない入居者にはその動きや表情から出来るだけ本人の意向を汲む努力をしている。	8割ほどの利用者が言葉で思いや意向を表出でき、難しい方の場合も表情や行動から把握している。フェイスシートに生活歴を記載しているが、他のシートも含め、趣味や嗜好の記載は少ない。	フェイスシートの備考欄を活用して、利用者の趣味・嗜好を記載し、共有することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りでその人の生活して来た環境、馴染みの物、生活に対するこだわり、希望等を聞き、今までどの様な生活をされていたか把握しこれからの生活に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体的な状態は毎日のバイタル測定や食事の摂取量等から把握し、精神面ではその日の言動や様子等から把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の支援の中で本人の意向や家族の希望等も聞き入れ、申し送りやケアカンファレンスで職員間の意見交換をし、日々の介護記録から入居者にとってより良い介護計画を作成している。	3か月ごとに介護計画を更新している。更新時の課題分析、評価表などの書類が整備されている。日々の記録を行うタブレット端末の「ケース」欄に計画目標に関する内容を記載するようにしているが、十分といえない。	計画目標の実施状況や、目標に関する利用者の変化、職員の気づきなどを「ケース」欄に適切に記録することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、入居者一人一人の介護記録を記載しており、業務日誌や連絡ノートで職員間で共有し、個々の変化を見逃す事なく介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常のサービスの他にも買い物や外出等、入居者の希望があれば個々に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内だけの生活にならない様に地域の人達と交流が持てる様に定期的にボランティアや傾聴ボランティア訪問を受けたり町内会の行事等に参加して色々な人達と交流が持てる様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医とは入居者のの身体的状態の情報提供等で常に連携を図り入居者が適切な医療を受けられる様に支援している。	5名の利用者は協力医による月2回の往診を受け、その他の方は元のかかりつけ医に通院している。通院は家族対応が難しい場合は事業所で支援している。利用者ごとに受診記録を作成し職員間で共有している。	

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回、提携病院から看護師の訪問があり、入居者の健康チェックやその時の状態に応じた身体的な相談をしてアドバイスをいただいたり医療に繋げる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時にはそれまでの状態や生活状況等を情報提供し退院時にはこれからのケアについて指示を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化した時や終末期にはどのようなケアを望んでいるか本人、家族と話し合いを持っている。また、身体的状況に応じて医療機関や他施設の紹介をしている。	利用開始時に「入居者様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、署名捺印を得ている。現在は事業所での看取りが難しい旨を家族に伝え、重度化した場合は医療機関等にスムーズに移れるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急救命講習を受けており、急変時や事故が起こった時には迅速に対応出来る様になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、色々な災害を想定して避難訓練を実施しており、家族や地域住民にも参加をしていただき災害時に協力をお願いしている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行い、地震想定訓練も予定している。訓練には消防や防災会社の協力があり、地域住民の参加依頼や地震時のケア場面別対応の検討を予定している。救急救命訓練は未実施である。	各職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるよう、計画的な取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者にはそれぞれ個室がありプライバシーを守る事は出来るが職員は特に排泄に関する言葉かけ等を注意しカンファレンス時に 言葉による虐待等の勉強会をしている。	利用者の呼びかけは「さん」付けとしている。接遇に関して新人研修やオンライン研修で学んでいる。気になる言葉遣いがあれば職員同士で注意している。申し送りはイニシャルを使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の希望に添ったケアを心掛けてており職員の意見を押し付ける事なく自己決定出来る様な働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のその日の状態やペースに合わせて食事の時間や入浴時間は柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣や整容は出来るだけ本人の決定を大事にしているが自分で決められない時や季節に合わない服装をしている時には声掛けし一緒に着替えをしている。		

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本社の管理栄養士が作成したメニューがあるが入居者一人一人の好みやその日の状態に合わせて調理方法や食材を変えている。	法人の献立で、利用者も野菜の下拵えや米研ぎなどを手伝っている。季節行事に合わせた献立の他、誕生日は寿司の出前を取ってお祝いしている。畑で収穫した野菜が食卓に上がることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量は一人一人毎日記録しており、必要摂取量が取れる様にその日の体調や好みに合わせて工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前、毎食後に必ず口腔ケアをしていたり、自力で出来ない入居者には職員が介助で行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入居者の排泄パターンを職員全員が把握している、失禁が多く紙パンツを利用していた入居者にあえて紙パンツを中止し、布パンツに変更したところ、失禁が少なくなった等自立に向けての取り組みをしている。	自立している方も多いが、全員の排泄状況をタブレット端末に記録して声かけや誘導を行い、昼夜ともにトイレでの排泄を支援している。健康状態に応じてベッド上で排泄用品を交換することもある。トイレ誘導の声かけは小声で行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数、時間、便形状等は記録しており、入居者の状態に合わせ長期間排便が見られない時には医師より処方の下剤を与薬している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午後に行っているが入居者の体調や希望する時間には柔軟に対応している、また、入浴を拒否される入居者にはどうして拒否されるのか入居者と話し合い原因を突き詰めて入浴に繋げている。	日曜日以外の午前から午後の時間帯で、一人週2回の入浴を支援している。入浴を拒む場合は、時間帯や声かけする職員を交代している。希望に応じて同性介助でも対応している。入浴剤を使用したり、職員と会話をしながら楽しく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、就寝時間の決まりはなく入居者本人にまかせているが快適に睡眠出来る様に室温や照明を入居者の希望や体調に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員が内服されている薬の種類、効能や副作用については職員全員が把握しており、食後、起床時、就寝前等決められた時間に与薬し内服確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人に役割を持っていただき、朝の掃除、洗濯物の整理、畑作り、布巾・雑巾縫い等得意とする事は出来るだけしていただき、声掛けしなくても自らやられている。		

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望があれば買い物に付き添い、天気の良い日には施設近隣の公園に散歩に出かけたりしている。	普段は車いすを利用する方も一緒に近隣を散歩したり、公園に出かけている。職員と一緒に野菜の苗を植えたり、収穫を手伝う利用者もいる。家族と外出する方もいるが、感染症の流行状況を見ながら外出行事も取り入れたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に難しい入居者が殆どだが自分でお金をもたれている入居者もあり、買い物に行った時には自分で清算出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人にはいつでも電話出来る様にしており、手紙も散歩がてら自ら投函出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔を保ち、照明、室温等も入居者の希望に合わせて調節して居心地の良い空間にしている。また、施設内にお正月、節分、ひな祭り、敬老会やクリスマス等の行事や季節の飾りつけを入居者と一緒にする事で季節の移り変わりを感じていただいている。	中庭を中心とした回廊式で、居間と食堂が独立した造りになっている。明るい光が注いでいる居間や食堂には、季節感のあるクリスマスツリーや手づくりのクリスマス装飾がきれいに飾られている。利用者の塗り絵や笑顔の写真も掲示されており、家庭的で温かな雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも一人でくつろげるソファ等があったり食堂、談話室、和室があるが、入居者がそれぞれ気の合った同士でお話出来る場所になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはなるべく使い慣れた家具や身の周りの品を持って来ていただいたり、家族やペットの写真や自宅で今まで育てていた植物等で今までの生活に近い環境の中で安心して過ごす事が出来る様な支援をしている。	クローゼットが備え付けられている居室に、使い慣れたタンスや椅子、鏡や時計などを持ち込んでいる。好きな縫いぐるみや小物類をたくさん飾り、その人らしい居室で落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれのお部屋には名札、家族が作った飾り物をドアに付けて自分の部屋とわかる様に、また、トイレもひと目でわかる様に工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600335		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームいすの木 2階		
所在地	苫小牧市住吉町2丁目8-9		
自己評価作成日	令和8年12月1日	評価結果市町村受理日	令和8年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の生活の意向を大切に、意思、人格を尊重し、日々、入居者様も職員も、笑顔や笑い声が絶えない、安心、安全な家庭的な生活を心がけています。春になれば中庭の畑を耕し、秋は作物を収穫して楽しんでます。
地域の皆様と交流が出来るように、運営推進会議を行い、入居者御家族、市役所介護福祉課、明野包括支援センター、民生委員、町内会の参加により、意見交換、行事報告や研修内容の報告等行っています。
そして、職員が明るく元気です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=0193600335-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年12月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員皆で考えた理念に基づいたサービスを提供しています 又 毎月のカンファレンス等で理念の意味を再確認しケアに活かしています		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアさん町内会の方たちが 行事に参加して下さり入居者様との交流をしています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護実習生さんたちを受け入れ認知症を理解していただけるようしています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行い入居者様家族 市役所の方 地域包括支援センター 町内会の皆様に参加していただき現状報告をしてケアに生かしています		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき現状報告をし、ご指導いただいています		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	できる限り身体拘束をせず 見守りを強化してます 3ヶ月に1回身体拘束に関する勉強会を行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修に参加したりして虐待のないケアをしています		

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前 成年後見人制度を利用していた入居者様がおりました 又 研修等で学んでいます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際しての契約時には本人 御家族に説明をし理解 納得の上 署名をいただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会 面会時に意見や要望を聞いています		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや毎月のカンファレンス会議 その他色々な機会に職員の意見を聞き仕事に反映させています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社の規定に従って予算の範囲で研修などに参加しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社で行う研修や市 グループホーム協会等の開催する研修に参加しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や市の開催する研修会に参加しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面談の時など本人の不安なことなどを聞き援助内容の説明しています			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時 ご家族様にも話を聞いてどのように生活してほしいか 又本人がどのように暮らしたいかを聞き希望に添うよう支援しています			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する時 一番必要な支援から対応しています			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来る事はなるべくしていただき 入居者様とスタッフが共に助け合い生活しています			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時等に日常生活の様子を伝えたり行事等に参加していただき本人とかかわりを持っていただいています			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友達 親戚等の面会があったり住んでいた自宅へ行ったりしています			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者のプライバシーを守りつつ孤立しないよう声掛けをし皆とコミュニケーションがとれるよう支援しています			

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談を受けた時は応じています			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様本人の意見や希望を一番に考え毎日の支援をしています			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の時に今までの生活状況の把握に努めています 又 入居後は会話などから生活歴 好みの把握しています			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の日々の状態はバイタル測定 入浴後の身体観察 食事を食べる様子や摂取量等色々な面で観察しています			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のアセスメント 御家族への聴き取りカンファレンス会議で一人ひとりに どのような支援が必要か話し合い介護計画を作成しています			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日入居者様の一人ひとりの様子や状態などを記録しており日誌や連絡ノート等で情報の共有をしています			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に添うよう支援しています			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの方々の協力を得て、レクリエーションなどの支援をしている			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様それぞれのかかりつけ医と連携を持ち本人の希望の医療が受けられるよう支援しています 通院が困難な方は訪問診療が受診できるように支援しています			

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月二回訪問看護を受けてます 来訪時 指示をもらってます			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時 介護情報を提供し医師からの状況説明がある時は立ち合いさせていただいております			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際 重度化した時や終末期どのような希望があるか御家族様と話し合いをしています			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はないが初期対応はマニュアルに沿って対応しています			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っています その時は御家族様町内会の方々にも参加していただいております			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し意向に沿った声かけをしています			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の意思を尊重を表出出来るような声掛け関わりをしています			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムにあった声掛け 支援をしています			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に入居者様の好みで選ばれており季節にあってない時は都度声掛けしています			

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みにも配慮をしながら栄養士の献立に沿って調理をし食事を楽しんでいただいています また配膳や洗い物などを入居者様と職員で共に行っています			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの飲み物を飲用出来るタイミングで提供しています 食事は食べやすい環境で召し上がっていただいています			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア 就寝前の義歯洗浄は声掛けをしながら行い月一度歯ブラシ交換行っています			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態にあった介助をさせていただきます			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認しながら下剤の投薬をし水分 果物を多めに摂取していただくように取り組んでいます			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の体調に合わせて週二回入浴していただいています			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床 就寝時間は決まっておらず入居者様におまかせしています			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員服薬にかかわっており入居者様の病名や薬の内容は把握しています			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせ掃除 洗濯物たたみ 茶碗洗いなどをお手伝いしていただいています			

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族様 ボランティアさんの協力を得て散歩や食事などに出かけています			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る人は少ないが買い物など職員が付き添いで出かけ自ら買い物の生産をしています			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様や友人への電話はいつでもかけれます			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるよう ディスプレイし共用空間は常に清潔にしています			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や食堂で思い思いの過ごし方をされています			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に御本人が 今まで使用されていた家具や食器などを持ち込まれています			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来る事 出来ない事を把握し安全な環境を整えています			